

2024年9月22日(日)

主催：(一般社団法人)障がい児成長支援協会

共催：社会福祉法人 同行会

こども発達支援ルーム「ぴあるーと」

～不登校や特別支援学級でも大丈夫！～

## 「特別支援が必要な生徒の高校進学の話」

- 通常の高校(全日制)と何が違うのか？
- 高等学校卒業後の就労の種類とお金の話
- 小学校高学年から相談OK！早期からの準備が大切！

(一般社団法人)障がい児成長支援協会 代表理事・協会長

中部学院大学 非常勤講師 山内康彦(学校心理士SV・ガイダンスカウンセラー)

まず考えておきたい

## 障害者手帳の種類と取得のメリット

①身体障害者手帳

②療育手帳

③精神障害者保健福祉手帳 の3種類

手帳の種類や障害の重さによって福祉サービスの内容が多少かわります

### 〈手帳取得のメリット〉

◎様々な福祉サービスが受けられます 例えば・・

### 〈手帳取得のデメリット〉

▲残念ながら偏見や差別等を受けることがあります

▲保険の加入や資格・就労等で制限を受けることがあります。

# 特別支援が必要な子ども達の増加

## ■データ①

小中学校の通常学級における発達障害の子ども

**全国 8.8%** (前回 6.5%)

**大幅に増加！ コロナ2019流行が原因！**

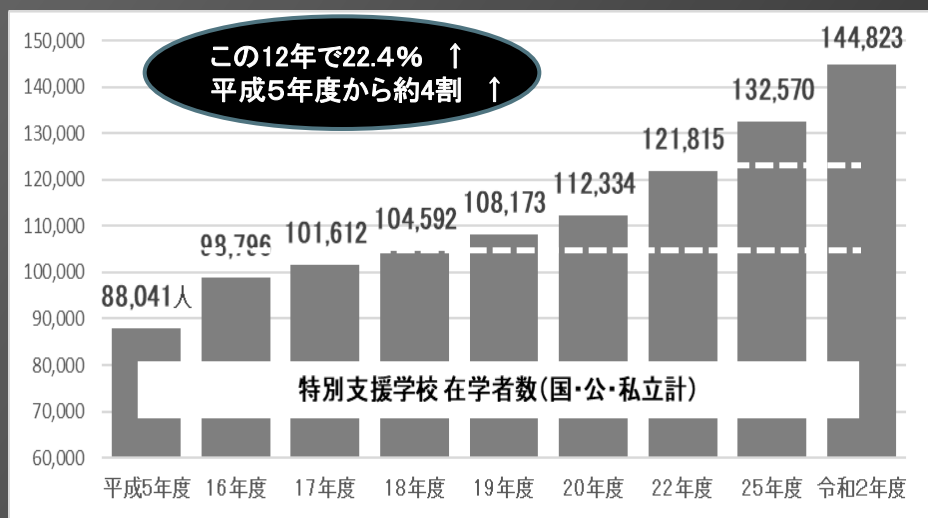
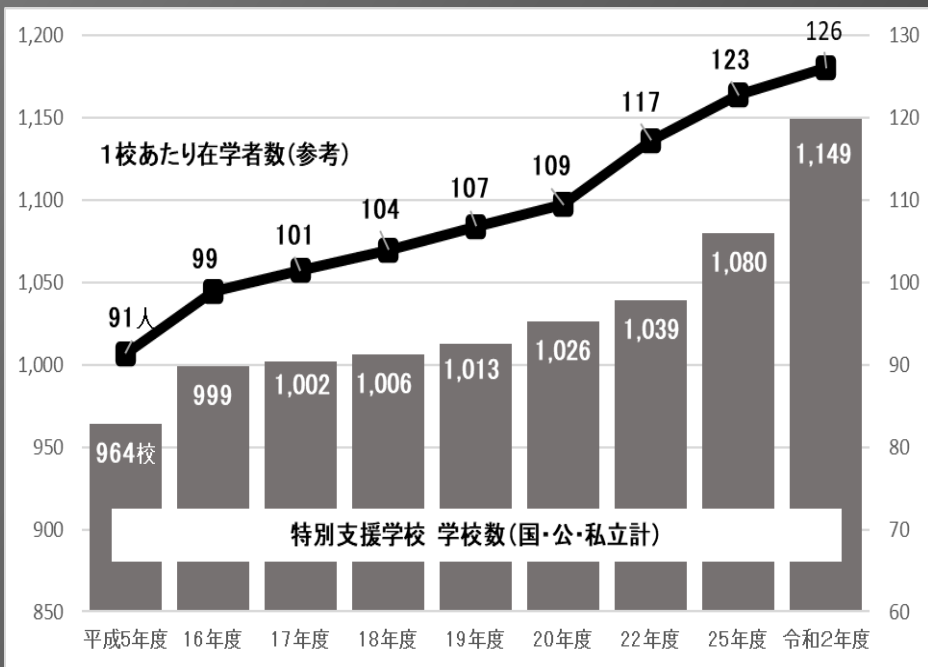
## ■データ②

小中学校の通常学級における発達障害の子ども

**小学校 77人に1人 中学校 20人に1人**

**※更に、“保健室登校”などの予備軍も多数有**

図1



● 小学校・中学校の特別支援学級数と児童・生徒数

特別支援教室の数

平成5年度  
21,619教室



令和2年度  
69,478教室

約3.2倍

在籍児童・生徒の人数

平成5年度  
69,250人



令和2年度  
300,540人

約4.3倍

# 恐るべし！特別支援教育の就職率

■特別支援学校高等部卒業者の就職率は・・・

# 全国 32.3%

なんと3人に一人しか就職できていない！

これが現実！

特別支援学校高等部へ行けば

「就労先を見つけてくれる」とは限らない！

まずは、将来の出口を考えることが大切！

→18歳のあとを考えて今の療育を行う

なぜ、「今が大切」と今ばかり見るのか？

→毎年変わる担任、責任がもてない？

《まず18歳以降の三つの生き方を考える》

- 1 手帳を使って「障害者」として生きていく
- 2 手帳をもたずに「健常者」として生きていく
- 3 1と2の合わせ技、手帳と学歴をもつ生き方

**注意！**

**特別支援学校高等部は原則高卒資格なし**

なぜ、特別支援学校は高卒資格がないのか？

→数Ⅰや現国・古文等の学習単位がないから！

《中3卒業後（15歳以降の生き方）を考える》

- 1 障害者として生きていく→特別支援学校
- 2 健常者として生きていく→高等学校
- 3 障害者手帳と学歴という生き方もある

**※通信制の高等学校のような特別な高校もある！**

# 通常の高校と特別な高校の違い

## 具体的な違いとしては . . . .

- 1 入試の違い→「5科目テスト」と「内申点」
- 2 必要な出席日数がある→欠席が多いと留年
- 3 “2”以上の成績が必要→“1”は留年！
- 4 1クラス40人→個別・少人数指導はなし
- 5 96単位の必要単位→通信は少ない74単位
- 6 特別支援が専門の教員は、大変少ない
- 7 卒業後の進路は、基本的に自分で開拓
- 8 体育祭や文化祭、集会など苦手に行事がある
- 9 中3までの内容ができたものとして進む学習
- 10 学費の違い（※就学支援金等について）



# 通常の高校と特別な高校の違い

## 1 入試の違い→「5科目テスト」と「内申点」

### 【通常の高校（全日制）】

- ①国語・数学・理科・社会・英語の五教科の  
合計点数500点
- ②国数理社英体美音家の全九科目の  
内申点の合計

### ①と②の合計をメインにして合否を決める

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

- ◎面接だけ
- ◎調査書だけ
- ◎3教科だけ等

# 通常の高校と特別な高校の違い

## 2 必要な出席日数がある→欠席が多いと留年

### 【通常の高校（全日制）】

#### ・ **基本的に三分の二以上の出席が必要！**

※医師の診断等、特別な場合でも二分の一以上  
（最終的には、高校の学校長の判断！）

### 【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

◎通信制高校でも必要な出席授業はある

（例）年に数日のスクーリング  
期末テスト等

※登校スタイルは学校によって様々

# 通常の高校と特別な高校の違い

3 “2”以上の成績が必要→“1”は留年!

【通常の高校（全日制）】

赤点をとると→補習再テスト

→それでも×なら留年になる？

※私立は、再々テスト等の配慮がある場合が有

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

◎3年間で74単位をとればよい

基本的に留年という概念はない！

※一定の基準は必要なので確認する

（例）保健体育は毎年行う？

# 通常の高校と特別な高校の違い

4 1クラス40人→個別・少人数指導はなし

【通常の高校（全日制）】

中学までは35人学級？

高校からは基本40人学級に担任が1人

※少人数や個別の支援は基本ない！

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

◎少人数や個別が基本のところが多い

※個別の場合に追加の授業料を徴収される

場合が多くあるので、事前に確認が必要

# 通常の高校と特別な高校の違い

5 基本96単位が必要→通信は少ない74単位

【通常の高校（全日制）】

必要のない教科まで余分に勉強して単位を取る

※国公立大学を受験できるようにするため

（センター試験で全教科受験する必要がある）

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

◎文科省→74単位が高卒の最低単位

必要に応じておかわり？→+αで単位取得可能

※毎日の授業にゆとりができる

# 通常の高校と特別な高校の違い

## 6 特別支援が専門の教員は、大変少ない

【通常の高校（全日制）】

通常の高高等学校の免許のみ

※特別支援学校専門の免許をもっている先生は  
大変少ない→※特に高等学校にはいない

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

◎学校によって様々

（例）明蓬館高等学校は、  
専門の指導員が常勤で働いており  
生徒や保護者のフォローがバッチリ！

# 通常の高校と特別な高校の違い

## 7 卒業後の進路は、基本的に自分で開拓

### 【通常の高校（全日制）】

高校卒業資格は取得できるが・・・

※その後の進路は、基本“自己責任”

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

◎学校によって様々

（例）大学に進学する場合→指定校推薦制度有  
専門学校に進学している場合は？・・・  
就労している場合は？・・・

# 通常の高校と特別な高校の違い

## 8 体育祭や文化祭、集会など苦手に行事がある

### 【通常の高校（全日制）】

特別活動や学校行事として、集団活動が多い

→これが苦手な子が多いが→基本、強制参加

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

◎学校によって様々→通常の高校に比べて配慮有

◎必ず参加しなくてはいけないものも少ない

（例）体育実技→その子のできるもので・  
見学等でも参加になるように配慮有



# 通常の高校と特別な高校の違い

## 9 中3までの内容ができたものとして進む学習

【通常の高校（全日制）】

いきなり“数Ⅰ”や“現代国語”

できない？→塾へ行ってください。

家庭教師でもつけてください

【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

◎学校によって様々→小中のやりなおしをする？

（例）明蓬館高等学校は、

「高校数学入門」「高校英語入門」

「高校国語入門」の単位が高卒の単位に

# 通常の高校と特別な高校の違い

## 10 学費の違い（※就学支援金等について）

### 【通常の高校（全日制）】

- ◎公立は基本、授業料が無料→国等の補助
- ◎私立も昔に比べてとても安い→国等の補助

### 【特別な高校】→※早期からの確認が大切！

- ◎国からの就学支援金が有（収入によって変化）

（例）有田青蓮高等学院は、

※さらに特別な割引制度もあります

→まずは、問い合わせと見学を申込みください

# 不登校や特別支援学級から進学できる 『様々な特別な高校の例』

- ①公立の定時制高校や単位制高校  
☆新規：インクルーシブ校
- ②特別支援が必要な生徒を受け入れてくれる私立高校
- ③通信制高校（サポート高校）
- ④専修学校（通信制＋専門学校）

# ①公立高校 特別支援対応校例

(定時制・単位制・インクルーシブ枠・通級)

- 定時制高校 . . . ◎安い ○4年制も有  
(今は、“夜間”とは限らない)
- 単位制高校 . . . ◎安い ◎登校が少  
(学校によって様々な仕組み)
- インクルーシブ枠  
(通常の高校に特別枠が数名ある)
- 通級 . . . . 小中と同様の制度が高にも  
(まだまだ見切り発車のところがある)

## ②私立高校 特別支援対応校例

(実質少人数で丁寧な支援・指導)

○支援学級や内申点がなくても受け入れOK

○卒業後の推薦枠を多く持っている

※高校から中学校に事前の説明に来ている

※中学の先生に問い合わせれば教えてもらえる

(例)

本当の定員は1クラス40名であるが . .

実際は20名程度で手厚い支援が受けられる

### ③通信制高校の例

(たくさんの支援が必要な生徒も受け入れ可)

○出席日数に対して理解がある

○74単位で高卒という、少ない学習内容

○少人数・個別中心の指導

※「スクーリング」には参加する必要あり

▲学費が通常の高校の二倍近く必要になる

・通信制高校行っても色々なタイプがある

※このあと詳しく説明します

### ③通信制高校の例(具体例①)

(ほとんど登校しないネット型通信制高校)

(20人~30人でざっくり少人数のサポート校)

- 自宅に引きこもっている生徒も参加可能
- 学習時間も融通がきく
- サポート料金(授業料)が安い
- 自宅が郊外でも通学時間が必要ない
- 全国様々な通信制高校から選択できる
- ▲卒業後の進路が見つかりにくい
- ▲最低限出席が必要なスクーリングはある？

## ③通信制高校の例(具体例②)

(登校するサポート高校型通信制高校)

○個別・少人数のサポートを受けて授業  
(※支援学級の支援と同じイメージ)

○その子なりの登校スタイル  
(週1コース・週3コース・毎日コース)

○卒業後の進路が見つかりやすい

○放課後等デイサービスと合わせた支援が可

▲サポート料金(授業料)が高い?

(※サポート校により各種割引制度有)



## ④専修学校（高等課程）の例

（専門学校と通信制高校が合体！）

- 「調理」「美容」「商業」「洋裁」「工業」  
など本人の興味のある内容が、学べる
- 高卒資格と専門学校資格のW卒業証書
- ▲受け入れはするが・・・少人数指導は難しい

※朝から毎日、ぎっしり授業が入っている  
▲学費が通常の高校の二倍近く必要になる  
→（※専門学校の学習も入るため）

# 入学できることより「卒業できる」学校か？ 『卒業後の進路は大丈夫か？』を考える

## 《進路選びのポイント》

- ①入学試験は何か（学力試験の有無・面接）
- ②進級・卒業の条件  
（期末試験の有無・卒業単位数74～110）
- ③先生の専門性（どんな先生がいるのか）
- ④出席日数が一定量必要な学校なのか
- ⑤少人数・個別対応をしてくれる学校か？
- ⑥卒業後の進路や就労の面倒を見てくれるか
- ⑦授業料がトータルいくら必要か？

# 高校を卒業した後について

(卒業証書の紙切れだけでは意味が無い)

- 大学・短大へ進学する→推薦制度も有!
- 専門学校へ進学する
- 就職する

上記の3つに行くことができればよいが . . .

- 究極の福祉サービスとして . . . 生活介護
- 就労移行支援事業
- 就労定着支援事業

# ご清聴ありがとうございました



## オススメ ほめる育て方や進路についてわかる本！

- ①特別支援教育って何？
- ②特別支援が必要な子どもの進路の話
- ③特別支援が必要な子どもの「就労・進学・進路」相談室
- ④特別支援が必要な子どもの高等学校進学の話→※新刊

WAVE出版→書店・アマゾン等で購入可能！

